

# 町民アンケート調査

---

## 《調査概要》

### ■ 調査目的

第二次総合計画を策定して大山町が取り組んできたことに対して、現在のまちづくりや行政サービスに、町民の皆様が日頃感じておられることをお聞きし、客観的な視点での評価を第三次大山町総合計画の策定に役立てるものです。

### ■ 調査対象

令和6年4月1日時点で満18歳以上の大山町民1,900人を抽出

### ■ 調査方法

郵送により調査票を配布し、郵送による調査票の返送またはとっとり電子申請サービスによる回答により収集

### ■ 調査期間

令和6年5月13日～令和6年6月10日

### ■ 回収状況

回収数 631票（うち 用紙511票 電子120票）      回収率 33.21%

### ■ 調査結果の見方

- 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。このため、百分率の合計が100.00%にならないことがあります。
- 集計には、未回答のものや複数回答する設問で規定数以上の回答があったものも含めています。このため、母数が回収数と異なる場合があります。
- 記述式の回答は、回答内容を要素に分けて分類しているため、回答者の数と回答数が異なる場合があります。

## 《調査結果要約》

### ①回答者の属性

回答者の年代は、18～34歳の回答率が全体平均の0.55倍で、65歳以上の回答率が全体平均の1.6倍です。回答者の居住地比率は、町内の人口比率と比較して、中山地区-1.08ポイント、名和地区-3.84ポイント、大山地区+4.92ポイントでした。

### ②大山町の魅力

大山町に住み続けたいと思う回答者は、全体の77.97%であり、そのうちの62.73%は血縁や地縁による理由を挙げられています。大山町の自慢は、32.50%が日本海や大山などの自然環境と回答しており、次いで防犯などの治安の安全性12.37%、子育て環境の充実9.59%など、他の選択肢を大きく超えています。

大山町に住み続けたくない・わからないという回答の理由と大山町の嫌な点や不満な点に関する回答には、同様の傾向があり、高齢になったときの交通の便・買い物・通院や医療環境など、日常生活の不便さを不安視する声が多くみられました。

また、近所づきあいや地域の連帯感・地域コミュニティに関することは、一長一短の評価でした。特に、移住された方に関する設問では、集落役目の負担感やプライバシーの観点で否定的な評価が多い傾向にありました。

### ③大山町の施策

第二次総合計画の取り組みを点数化したところ、取り組みに関する「現在の満足度」の全体平均が「普通」（選択肢の中央）を下回った一方、「今後の重要度」の全体平均は、「現状のまま」（選択肢の中央）を上回り、課題が多く残る結果でした。

町政への意見や提言については、およそ半数近くが意見や提言を伝えたいかわからない・意見や提言が反映されているかわからないという結果でした。

### ④町政運営全般

特に意見の多かった項目は、子育て支援、学校教育、高齢者福祉、交通対策、生活の利便性のほか、住民参画、行財政運営、行政組織、政策立案、情報発信など、町政の運営手法に関してご意見をいただきました。

## 《調査結果詳細》

### 回答者の属性

#### ■Q1 性別

回答	(3)	Q1-1	Q1-2	Q1-3	Q1-4
区分	全体	男性	女性	未回答	無回答
件数	631	263	350	13	5
割合	100.00%	41.68%	55.47%	2.06%	0.79%

#### ■Q2 年齢

回答	(12)	Q2-1	Q2-2	Q2-3	Q2-4	Q2-5	Q2-6	Q2-7	Q2-8	Q2-9	Q2-10	Q2-11	Q2-12	Q2-13
区分	全体	18～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答
件数	631	33	24	32	51	50	51	34	53	47	73	76	106	1
割合	100.00%	5.23%	3.80%	5.07%	8.08%	7.92%	8.08%	5.39%	8.40%	7.45%	11.57%	12.04%	16.80%	0.16%

#### ■Q3 居住地

回答	(10)	Q3-1	Q3-2	Q3-3	Q3-4	Q3-5	Q3-6	Q3-7	Q3-8	Q3-9	Q3-10	Q3-11
区分	全体	大山地区	所子地区	高麗地区	御来屋地区	名和地区	庄内地区	光徳地区	上中山地区	下中山地区	逢坂地区	無回答
件数	632	110	97	60	43	53	60	51	29	65	63	1
割合	100.00%	17.41%	15.35%	9.49%	6.80%	8.39%	9.49%	8.07%	4.59%	10.28%	9.97%	0.16%

#### ■Q4 町内居住年数（旧3町含む）

回答	(7)	Q4-1	Q4-2	Q4-3	Q4-4	Q4-5	Q4-6	Q4-7
区分	全体	1年未満	1年～5年未満	5年～10年未満	10年～20年未満	20年～30年未満	30年以上	無回答
件数	631	9	32	36	76	95	383	0
割合	100.00%	1.43%	5.07%	5.71%	12.04%	15.06%	60.70%	0.00%

#### ■Q5 出生時の居住地

回答	(4)	Q5-1	Q5-2	Q5-3	Q5-4
区分	全体	大山町	鳥取県内の他市町村	鳥取県外	無回答
件数	631	354	174	102	1
割合	100.00%	56.10%	27.58%	16.16%	0.16%

#### ■Q6 家族構成

回答	(4)	Q6-1	Q6-2	Q6-3	Q6-4	Q6-5
区分	全体	18歳未満の家族がいる	18歳～64歳の家族がいる	65歳以上の家族がいる	同居している家族はいない	無回答
件数	977	189	395	345	48	0
割合	100.00%	19.34%	40.43%	35.31%	4.91%	0.00%

#### ■Q7 通勤・通学先

回答	(11)	Q7-1	Q7-2	Q7-3	Q7-4	Q7-5	Q7-6	Q7-7	Q7-8	Q7-9	Q7-10	Q7-11	Q7-12
区分	全体	大山町内	日吉津村	米子市	境港市	伯耆町	南部町	琴浦町	北栄町	湯梨浜町	倉吉市	その他	無回答
件数	631	253	11	152	3	6	6	10	1	1	8	116	64
割合	100.00%	40.10%	1.74%	24.09%	0.48%	0.95%	0.95%	1.58%	0.16%	0.16%	1.27%	18.38%	10.14%

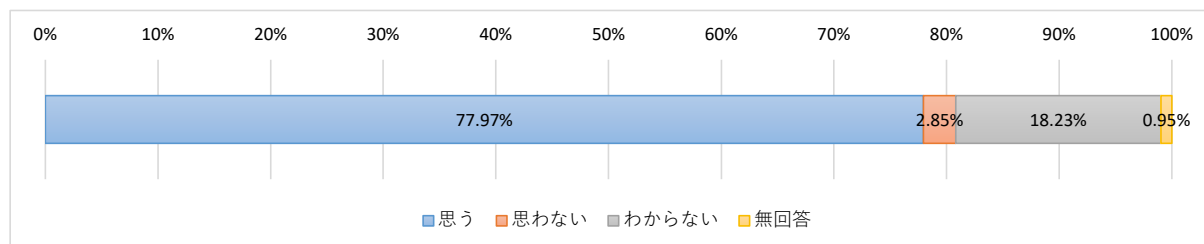
■Q8 職業

回答区分	(11) 全体	Q8-1 商・工・サービス業（商店・工場・建設業の個人経営者及びその家族従業者）	Q8-2 農林水産業	Q8-3 自由業（作家・画家・写真家・陶芸作家・開業医・弁護士など）	Q8-4 専門的技術職（医師・薬剤師・技師・研究者・教員・保育士など）	Q8-5 事務職（管理職・経理・営業・オペレーターなど）	Q8-6 労務職（店員・工員・作業員・技能員・運転手など）	Q8-7 内職・パートタイム・アルバイトを定常的にしている	Q8-8 専業主夫・専業主婦	Q8-9 学生	Q8-10 無職	Q8-11 その他	Q8-12 無回答
件数	633	69	78	2	84	59	51	76	39	11	120	33	11
割合	100.00%	10.90%	12.32%	0.32%	13.27%	9.32%	8.06%	12.01%	6.16%	1.74%	18.96%	5.21%	1.74%

## 大山町の魅力

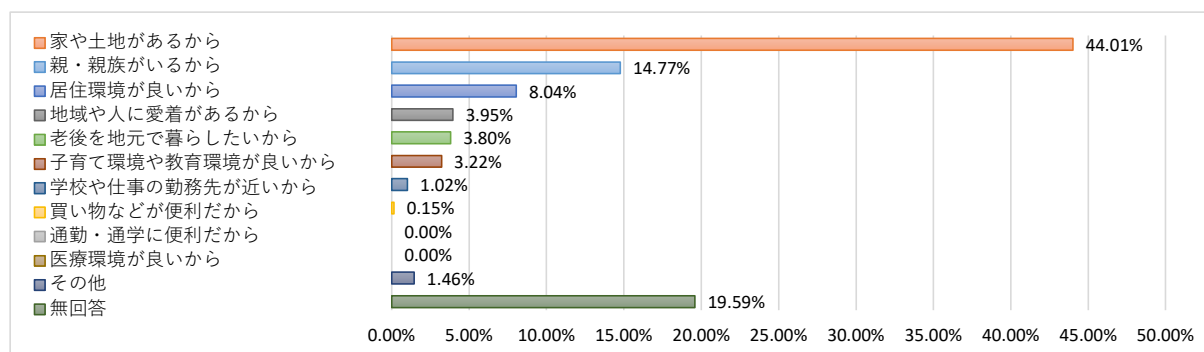
### Q9 あなたは今後も大山町に住み続けたいと思いますか。

「思う」77.97%、「思わない」2.85%、「わからない」18.23%でした。



### Q10 あなたが大山町に住み続けたいと思う一番の理由をお聞かせください。

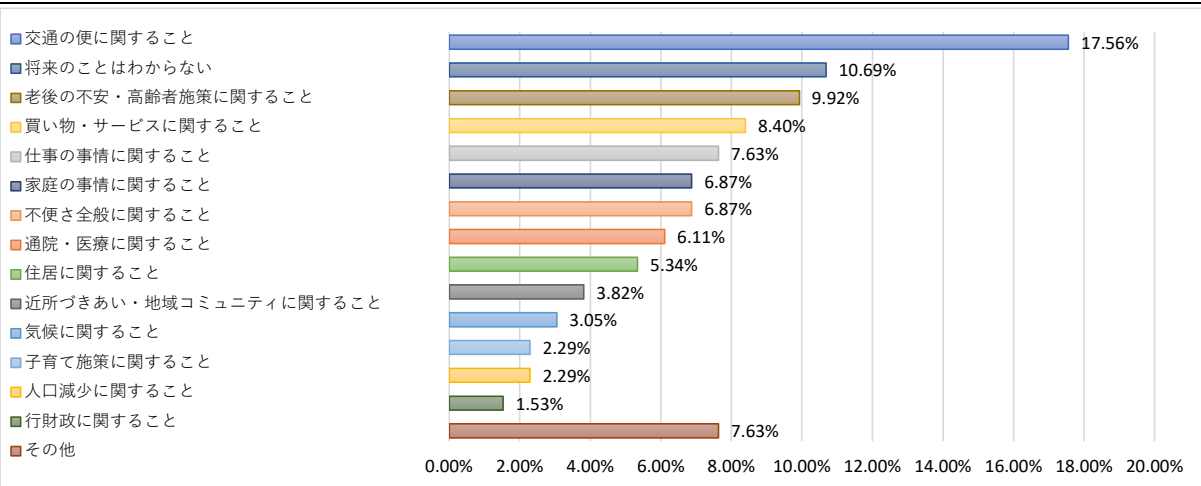
「家や土地がある」「親・親族がいる」「地域や人に愛着がある」など血縁や地縁に関する回答が合わせて62.73%で半数を超えています。一方、「子育て環境や教育環境が良い」といった施策、通勤・通学や買い物・医療などの理由は全体の10%に満たない結果でした。



**Q11** あなたが大山町に住み続けたいと思わない理由をお聞かせください。

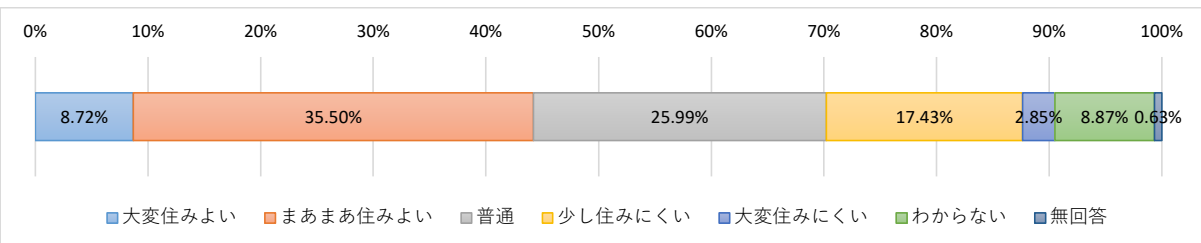
大山町に住み続けたいと「思わない」または「わからない」と回答された133人のうち、103人が理由を記入されました。内容により131件の意見に分け、15の項目に分類しました。

特徴的なことは、「交通の便に関すること」、「老後の不安・高齢者施策に関すること」、「買い物・サービスに関すること」、「通院・医療に関すること」を複合して意見を挙げられていたことです。高齢になり自動車の運転が困難になったとき、生活の土台である日々の食事や通院の不便さが際立ち、老後の不安につながっているものと考えられます。「不便さ全般に関すること」の回答にも、このような意識が含まれているものと考えられます。



**Q12** あなたは大山町が町外から移住されてくる方にも「住みよいまち」だと思いますか。

「大変住みよい」8.72%、「まあまあ住みよい」35.50%、合わせて44.22%が住みよいと回答しました。一方、「大変住みにくい」2.85%、「少し住みにくい」17.43%、合わせて20.28%が住みにくいと回答しました。

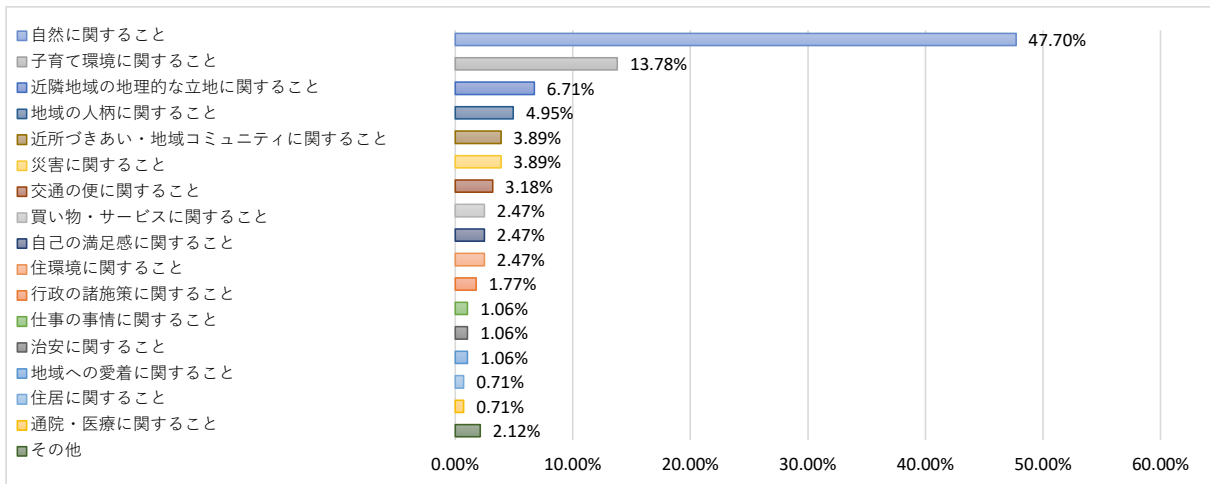


Q13 あなたがQ12 で選んだ回答の理由をお聞かせください。

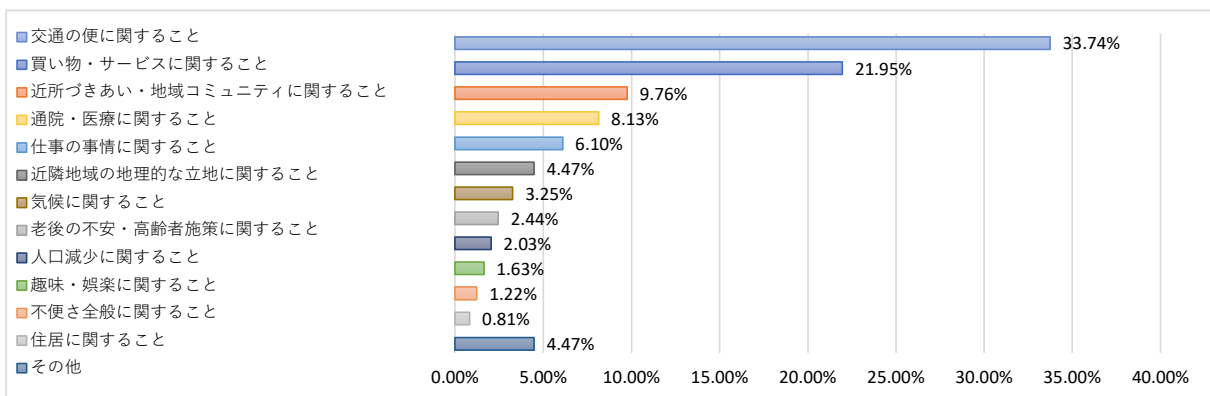
「住みよい」と評価された理由は、「自然」47.70%、「子育て環境」13.78%、合わせて60.78%で過半数を「自然」と「子育て環境」が占めました。一方、「住みよくない」と評価された理由は、「交通の便」33.74%、「買い物・サービス」21.95%、「通院・医療」8.13%、これらの日常生活をする上で必要となるサービスを受けることに不便さを感じている回答が多く、合わせて63.82%でした。

米子市などの「近隣地域との地理的な立地に関すること」と「近所づきあい・地域コミュニティに関すること」は、どちらの評価にも挙がっていますが、どちらかといえば「地理的な立地」は、アクセスの良さに肯定的な意見が多い一方、「近所づきあい・地域コミュニティ」は、集落役目の負担感やプライバシー確保の点で否定的な意見が多くありました。

(肯定的に評価されたもの)

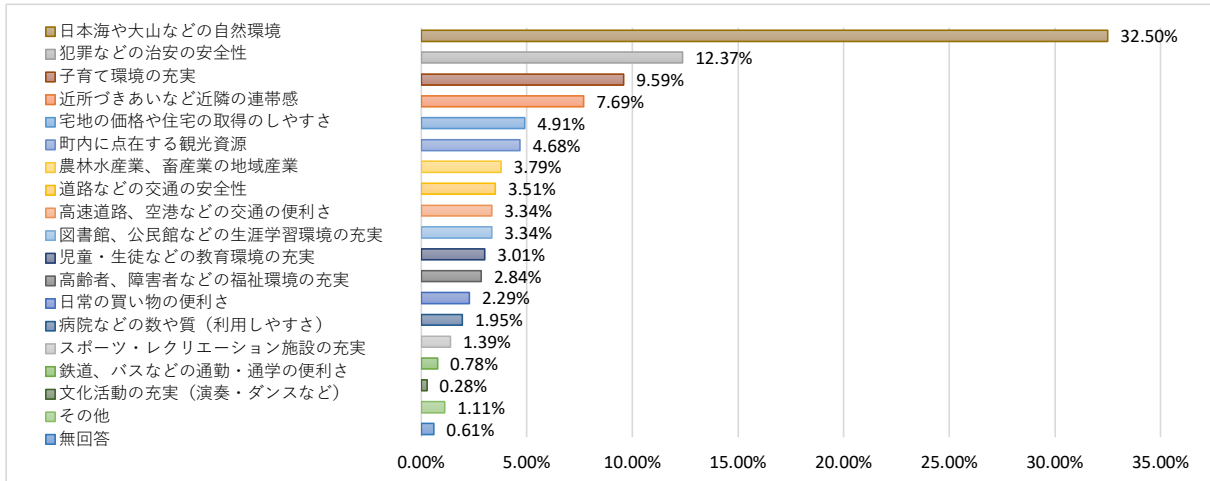


(否定的に評価されたもの)



## Q14 あなたは大山町について自慢できるものがありますか。

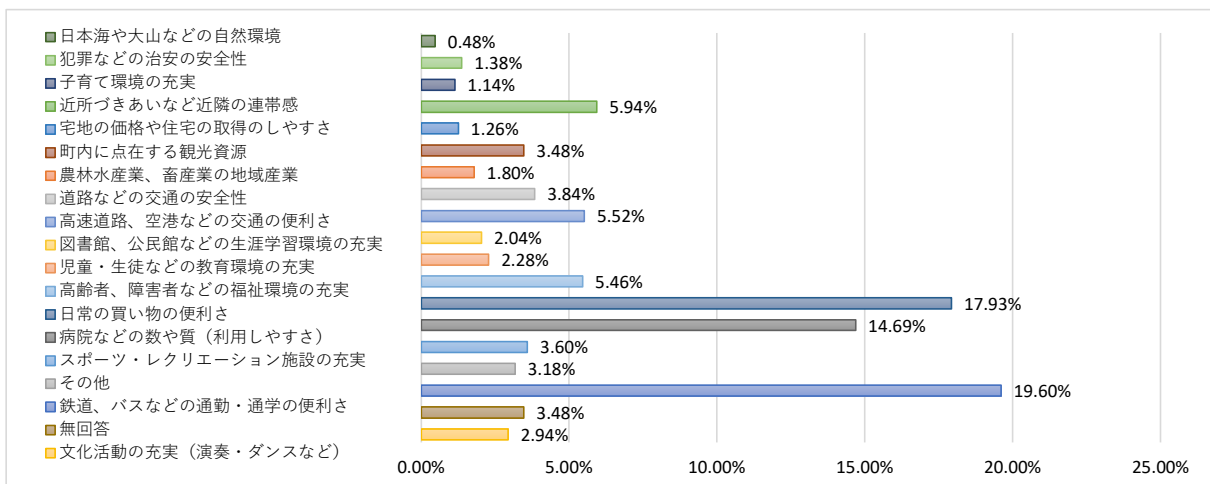
「日本海や大山などの自然環境」32.5%、「犯罪などの治安の安全性」12.37%、「子育て環境の充実」9.59%、「近所づきあいなど近隣の連帯感」7.69%という結果でした。Q12の住みよいと評価された結果と同じ傾向が見て取れます。



## Q15 あなたにとって大山町の嫌な点や不満な点はなんですか。

グラフの並び順は、Q14と同じ順です。上位の理由は、「鉄道、バスなどの通勤・通学の便利さ」19.60%、「日常の買い物の便利さ」17.93%、「病院などの数や質（利用しやすさ）」14.69%という結果でした。こちらも、Q12の住みよくないと評価された結果と同じ傾向が見て取れます。

Q14とQ15のグラフの突出を比較すると、自慢できる点と不満な点が相反する傾向が見えますが、「近所づきあいなど近隣の連帯感」に関しては、回答者によって評価が分かれてくるものと考えられます。



## 行政施策

Q16

各施策について、あなたが考える「現在の満足度」と「今後の重要度」をお聞かせください。

大山町未来づくり10年プラン（第二次町総合計画）では、「楽しさ自給率が高いまち」の実現を掲げ、「第1章」から「第6章」の各分野において、「01」から「33」までの施策に取り組んでいます。Q16については、各施策の「現在の満足度」及び「今後の重要度」について、5段階で回答してもらいました。回答結果を次の基準で点数化し、各施策の平均点を算出しました。

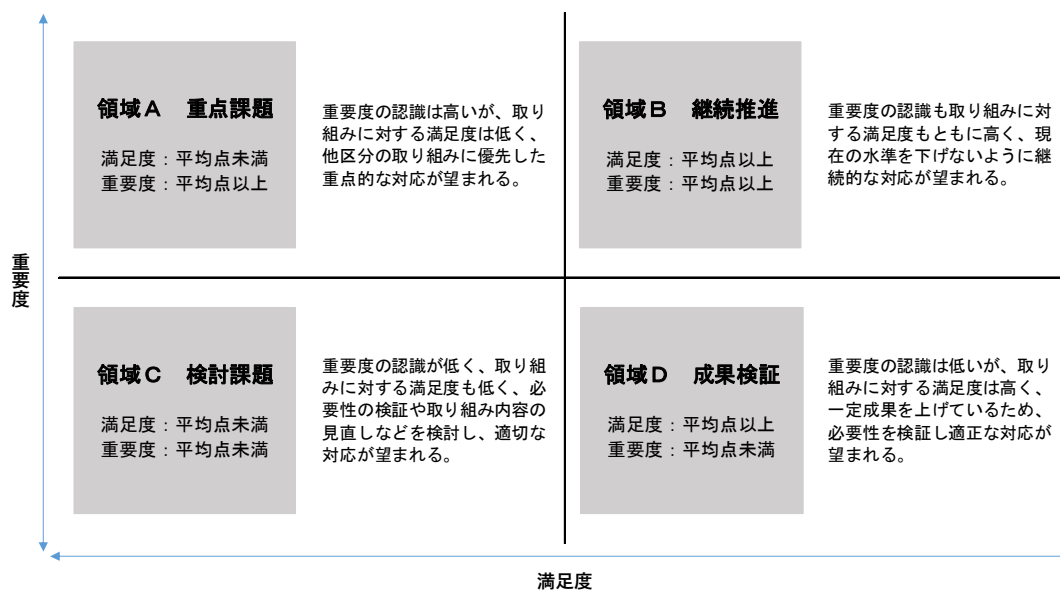
満足度：満足+1.0 どちらかといえば満足+0.5、普通 0.0、どちらかといえば不満-0.5、不満-1.0

重要度：重要+1.0 どちらかといえば重要+0.5、現状維持 0.0、どちらかといえば重要でない-0.5、重要でない-1.0

※「わからない」及び「無回答」は0.0

満足度をX軸、重要度をY軸とするグラフ上に、施策の平均点を中心として各取り組みの点数を散布図で表すと、次ページの図となります。平均点を中心に区分される4つの領域のどこに点数が位置しているかで各取り組みを評価しました。各領域の定義は表に掲げるとおりです。

表 満足度と重要度による取り組み評価の考え方



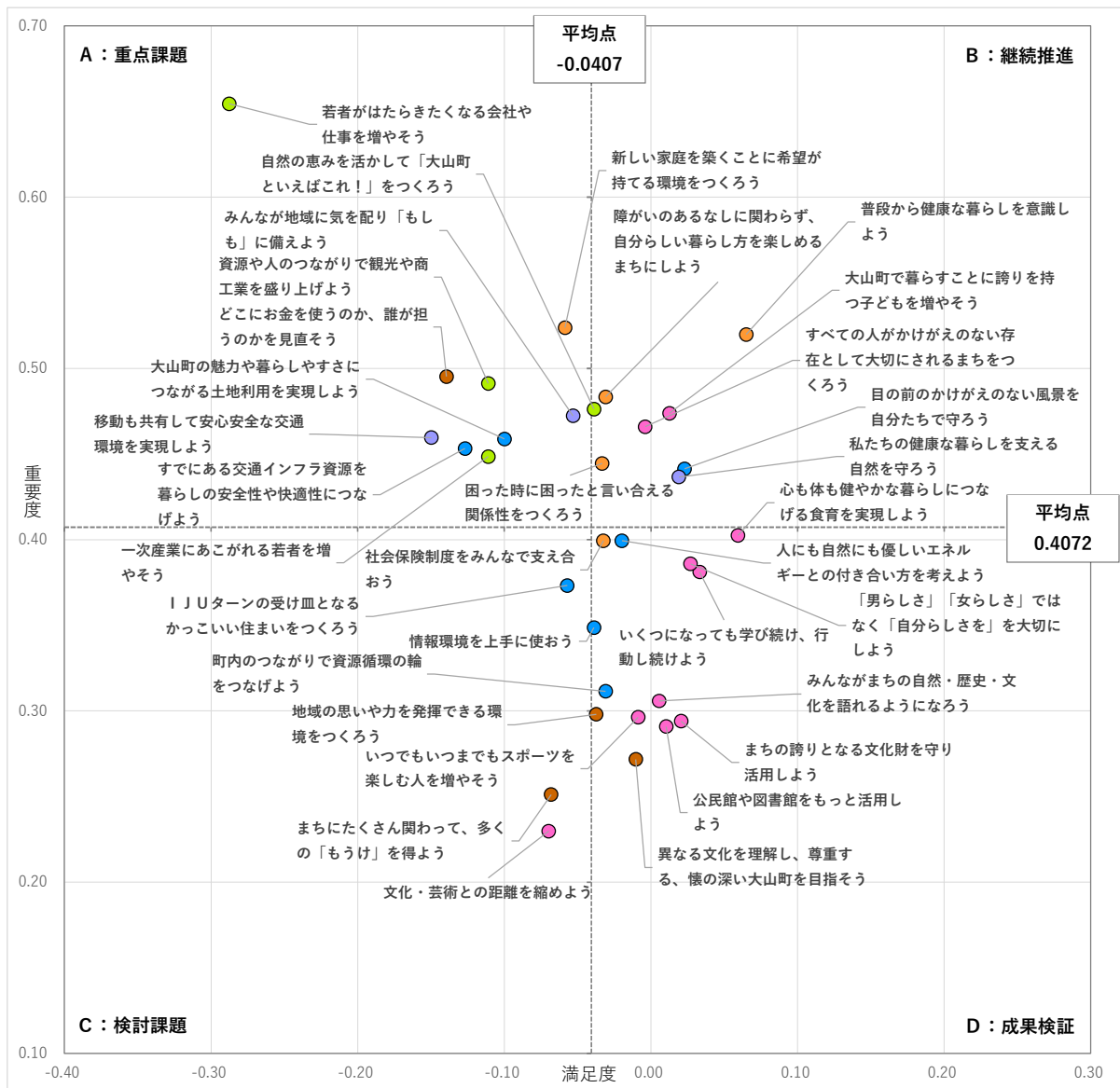


施策の評価を点数化した結果、「現在の満足度」は、最高点 0.06、最低点-0.29、平均点 -0.0407 であり、33 の施策のうち 23 の施策が普通 (0.0) 未満の評価でした。「今後の重要度」は、最高点 0.65、最低点 0.23、平均点 0.4072 であり、すべての施策で現状維持 (0.0) 以上の評価でした。

施策を分野にまとめた場合の領域における分布状況は、次のとおりです。

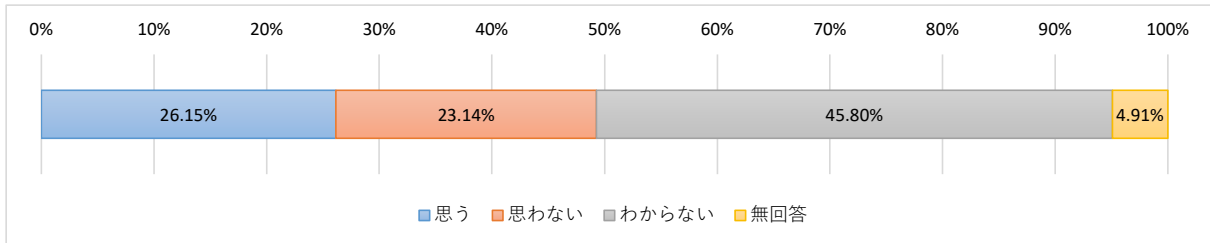
	教育・文化	産業	保険・医療・福祉	環境整備	生活環境	行財政
A：重点課題		●	●	●	●	●
B：継続推進	●	●	●	●	●	
C：検討課題	●			●		●
D：成果検証	●		●	●		●

図 各施策の評価分布



**Q17** あなたは町政へ意見や提言を伝えたいと思いますか。

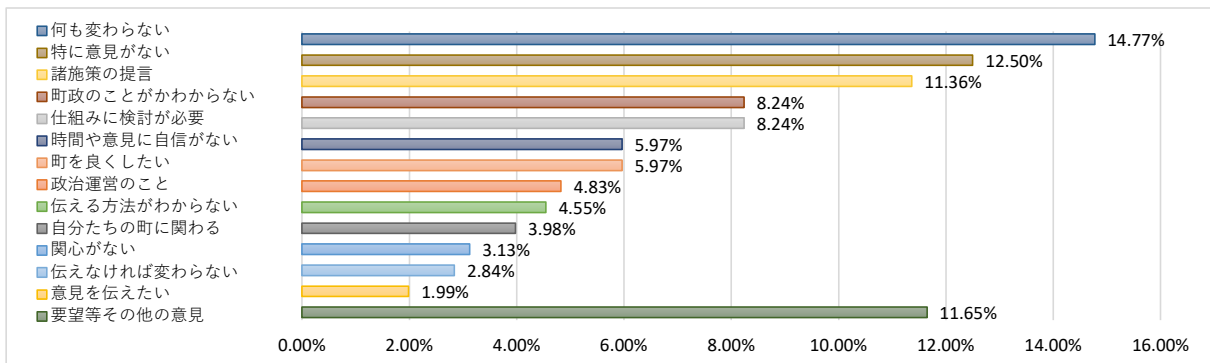
「思う」26.15%、「思わない」23.14、「わからない」45.80%という結果でした。



**Q18** あなたが問 17 で選んだ回答の理由をお聞かせください。

Q17 の回答 600 件（無回答を除く）に対して、352 件の記述回答がありました。「町を良くしたい」5.97、「自分たちの町に関わる」3.98、「伝えなければ変わらない」2.84 など、意見や提言の必要性の理由に関するものや、実際の「諸施策の提言」が 11.36%ありました。

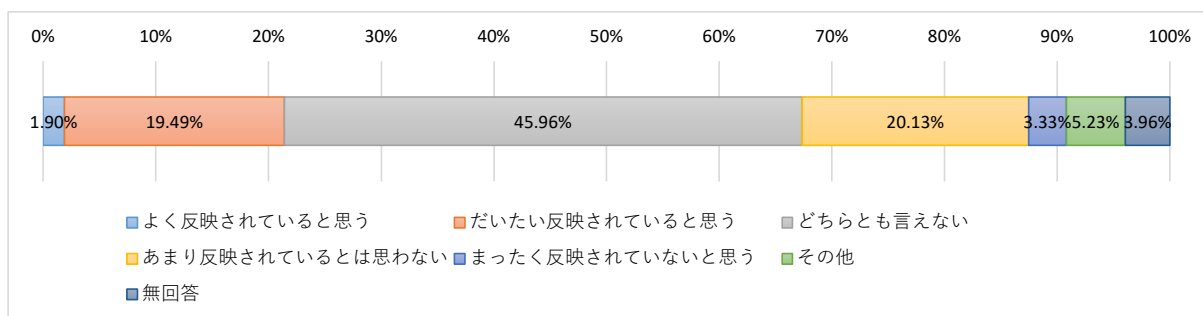
一方、意見や提言をしても「何も変わらない」14.77%、声を拾う「仕組みに検討が必要」8.24%など政策形成過程での課題や、「町政のことがわからない」8.24%、「伝える方法がわからない」4.55%など、取り組みの周知や説明に関する課題が見て取れます。



**Q19** あなたは町民の意見や提言が町政に反映されていると思いますか。

「よく反映されていると思う」1.90%、「だいたい反映されていると思う」19.49%、合わせて 21.39%が反映されているという評価でした。一方、「まったく反映されていないと思う」3.33%、「あまり反映されているとは思わない」20.13%、合わせて 23.46%が反映されていないという評価でした。

「その他」の回答は、ほぼすべてが「わからない」という記述回答であり、「どちらともいえない・わからない」という回答がおよそ半数を占めています。



## 町政運営全般

Q20 町政運営全般について、ご意見などがありましたらご記入ください。

町政運営全般について、178人が意見を記入されました。内容により333件の意見に分け、37の項目に分類しました。

### ■項目別の意見数

1	子育て支援に関すること	11件	20	生活の利便性向上に関すること	11件
2	学校教育に関すること	14件	21	道路管理に関すること	7件
3	図書館・公民館の充実に関すること	6件	22	空き家・空き地に関すること	10件
4	農業振興に関すること	2件	23	土地利用に関すること	4件
5	耕作放棄に関すること	5件	24	個人資産に関すること	4件
6	水産業振興に関すること	1件	25	人口減少対策に関すること	9件
7	畜産業に関すること	2件	26	移住・定住に関すること	3件
8	商工振興に関すること	7件	27	遊び場・集いの場に関すること	10件
9	雇用・企業誘致に関すること	13件	28	デジタル推進に関すること	2件
10	観光振興に関すること	2件	29	行財政運営に関すること	53件
11	健康維持に関すること	4件	30	行政組織・職員に関すること	14件
12	通院・医療に関すること	8件	31	行政サービスに関すること	10件
13	高齢者福祉に関すること	13件	32	公共施設に関すること	6件
14	障がい者福祉に関すること	4件	33	政策立案に関すること	10件
15	交通対策に関すること	14件	34	情報発信に関すること	17件
16	交通安全・防犯に関すること	2件	35	住民参画に関すること	16件
17	防災に関すること	3件	36	地域コミュニティに関すること	3件
18	自然環境・景観保全に関すること	8件	37	まちづくり全般に関すること	18件
19	ごみ処理・削減に関すること	7件	合計		333件